



ふくしまからはじめよう。

福興し々

ふっこうれだー

第8号

令和2年4月

「今日の努力は 笑顔あふれる農空間 復興のために」

東日本大震災から十年目の節目の年を迎えました。皆様いかがお過ごしでしょうか。これまでの復旧・復興の取組に対する全国からの暖かいご支援に心から御礼申し上げます。昨年秋に台風十九号等豪雨による甚大な災害が発生しましたが、今年3月にはJR常磐線が全線運転再開、双葉町で初の避難指示が解除されるなど本県の復興は着実に進んでいます。現在、避難指示区域の早期の営農再開に向けた生産基盤の復旧・再生に全力で取り組んでおり、復興は未だ道半ばにあります。今年度は七県十一名の方が福耕支援隊として駆け付けてくださいました。皆様から力強い応援歌(エール)をいただきながら、これからも復興への歩みを進めてまいりますので、引き続き変わらぬご支援をお願いいたします。結びに、新型コロナウイルスの一日も早い終息を願うとともに、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



福島県農林水産部次長(農村整備担当) 渡部 幸英

福耕支援隊の皆さん 集合!!

平成30年度 福耕支援隊
総勢 18人の屈強な男たち!



令和元年度 福耕支援隊
総勢 13人の令和初の支援隊!



平成30年度 福耕支援隊
チーム原町東



令和元年度 福耕支援隊
ふくしまの浜に植樹を!



福耕支援隊チームからのメッセージ

相双農林事務所農村整備部では、全国からの応援職員に助力を頂きながら災害復旧等の業務を行っています。平成30年度は18名の福耕支援隊に、令和元年度は13名の福耕支援隊に福島県の復旧・復興業務に励んで頂きました。



平成29年度～派遣

農村整備第二課
富井 博文 主査(新潟県)

震災から9年が経ち、復旧・復興は着実に進んでいますが、まだ震災の爪痕が残っている地域も多々あります。着任して最初は、業務の進め方についていけないところばかりでしたが、プロパー職員の方々には助けられ進めることができました。

私たち全国から来た支援隊は、皆で支え合いながら一日も早く福島県の復旧・復興に取り組んでいかなければと思っています。



平成30年度派遣

農村整備第一課
漆畑 友也 副主査(静岡県)

私が担当した原町南部地区は、福島第一原発の影響もあり、津波被災後約8年間手つかずの農地を復旧するというものでした。平成30年4月に着任し、現地の荒れ果てた状況を見たときには、元の農地に復旧することが可能なかと不安に感じたことを覚えています。

地震・津波・原発の度重なる被害からの復旧は容易なことではありませんが、一日も早く営農再開が図られ、地域が復興していく姿を思い描きながら精一杯業務に励みました。



平成30年度派遣

農村整備第三課
横山 達 主任主査(長野県)

相双農林事務所は福島の光と影を実感できる事務所でした。震災から9年が経過し活力を取り戻しはじめた地域がある一方、まだまだ原発事故の影響が色濃く残る景色に衝撃をおぼえました。

今回、大震災からの復旧に携われたことは貴重な経験で感謝するとともに、少しでもお役に立てたなら幸いです。

福島県での仕事は残りわずかですが、今後も福島県の魅力などを発信し復興のお手伝いができればと思っています。



農村整備第二課
藤田 達也 技師(滋賀県)

令和元年度派遣



平成31年4月に着任し復興事業に携わり、福島県の現状を見て、おいしい食べ物や豊かな自然に触れることができました。着実に復興に向けて進んでいることを感じるとともに、まだ道半ばの部分も見受けられました。

業務では初めての地で不安なこともありましたが、全国からの派遣職員やプロパー職員の皆さんから助けられながら業務を遂行することが出来ました。少しでも福島県の復興に貢献出来るよう日々の業務に励みました。

令和元年度派遣

農村整備第二課
森 健 技師(沖縄県)



平成30年度派遣

農村整備第二課
照屋 央 技師(沖縄県)



震災から9年が経ち、一部では原発事故の影響で思うように復興が進んでいない状況もありますが、津波被害を受けた農地のほ場整備は着実に進んでおり、区画も大きく綺麗な水田の広がりを見ると確実に復興は進んでいると感じています。業務では、戸惑うことも多かったですが、プロパー職員の皆さんに助けをいただきながら進めることができました。

これからは、福島県で復興に携わることができた貴重な経験を今後活かしていきたいと思っています。

平成30年4月に赴任し被災を受けた地域の復興に携わり、福島県の復興への取り組みについて知り、食や自然など福島の魅力を感じました。震災の爪痕は私が考えていたよりもずっと大きく深いけれど、皆前を向いている、私も力になりたいと強く感じました。

業務では福島県職員や各県の派遣職員の皆さんに助けをいただき、とても感謝しています。少しでも福島県の復興が進むよう、日々の業務を頑張りました。

これまでの福耕支援隊の支援体制(配置人数)

区分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称
農林水産省 派遣元	8局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	8局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	7局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄	7局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、沖縄
	27道府県	北海道、青森、栃木、群馬、新潟、静岡、富山、石川、福井、長野、山梨、岐阜、滋賀、愛知、京都、大阪、島根、岡山、広島、山口、愛媛、香川、福岡、長崎、大分、宮崎、沖縄	16道府県	北海道、青森、秋田、栃木、群馬、埼玉、神奈川、新潟、山梨、長野、滋賀、山口、愛媛、福岡、大分、沖縄	12道府県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、山梨、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道府県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	11道府県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄
	市町村		3市	新潟県新発田市 富山県富山市 富山県南砺市	6市	新潟県新発田市 富山県富山市 新潟県小千谷市 富山県南砺市 長崎県諫早市	4市	新潟県新発田市 富山県富山市 福井県大野市 長崎県諫早市	4市	新潟県新発田市 福井県大野市 岡山県総社市 長崎県諫早市
派遣先	2事務所	県中農林事務所 相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所
	5市町	須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町	7市町	須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榎葉町、浪江町	7市町	須賀川市、相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榎葉町、浪江町	6市町	相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榎葉町、浪江町	6市町	相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榎葉町、浪江町
人数	294名		353名		307名		258名		241名	

区分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称	箇所数	名称
農林水産省 派遣元	8局	北海道、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州、沖縄	7局	東北、関東、北陸、東海、近畿、中国四国、九州	5局	東北、関東、東海、近畿、中国四国	2局	東北、中国四国	1局	東北
	11道府県	北海道、青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、滋賀、山口、愛媛、大分、沖縄	10道府県	青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、神奈川、滋賀、愛媛、大分、沖縄	10県	青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、長野、静岡、滋賀、愛媛、沖縄	9県	青森、秋田、栃木、埼玉、新潟、長野、静岡、滋賀、沖縄	7県	青森、秋田、埼玉、新潟、静岡、滋賀、沖縄
	3市	福井県大野市 岡山県総社市 長崎県諫早市	2市	長崎県諫早市、鹿児島県日置市						
派遣先	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所	1事務所	相双農林事務所
	7市町	相馬市、南相馬市、広野町、新地町、榎葉町、浪江町、川内村	5市町	相馬市、南相馬市、新地町、榎葉町、浪江町	5市町村	南相馬市、新地町、榎葉町、浪江町、飯館村	5市町村	南相馬市、富岡町、榎葉町、浪江町、飯館村	2町村	浪江町、飯館村
人数	196名		97名		55名		17名		13名	

復興支援隊にインタビュー

今回紹介させて頂くのは、平成30年度に支援頂いた元気100倍！「栃木県 鈴木孝昭技師」とお昼ご飯はお弁当にスープ代わりのカップラーメンでおなじみの「秋田県 中村寿喜技師」そして、平成30年度から2年間支援頂いた自称埼玉のスーパースター「埼玉県 宮島陽一技師」の3名に福島の影響や生活などをインタビューしてみました（笑）。

被災地や福島県に来てみた感想・印象
はいかがでしたか？

編集者

既読3



栃木県
鈴木技師

私のイメージする被災地は、8年前にテレビやネット上で見た状況で止まっていた。今回、自治法派遣職員として実際に現地を見て、復旧・復興が着実に進んでいることを感じるとともに、自分自身の記憶の古さを認識しました。そんな中、地元住民の方から直接お話を聞くと、避難している住民の方もまだまだ多く、被災前とのギャップが大きいこともわかりました。
“人”が戻ってきてこそ、“本当の意味での復旧・復興”になることを教えられ、自分の業務（農地の復旧≒生活基盤の復旧）が“本当の意味での復旧・復興”に繋がると理解し、非常にやりがいを感じたことを憶えています。



秋田県
中村技師

福島県に来た当初は、自分が思っている以上に復興は進んでいると思いました。南相馬市街は普通の町並みで地元の人が普通に生活している印象を持ちました。
しかし市街地から少し離れた南部の方では、未だに震災の爪痕が残っていると感じました。いわき市へ向かう途中、国道6号線沿いの避難指示区域は震災当時の場所もあり大きな衝撃を受けました。
福島県の復興はまだ道半ばであり、これからも長い時間を掛けて復興作業を進めていかなければならないと感じました。



埼玉県
宮島技師

私が福島県に初めて来たのは、2年前です。テレビやニュースの印象では、いかにも被災地というイメージしかありませんでしたが、決してそんなことはなく、むしろ生活圏内は居酒屋さんが多いなという感想でした。しかし、現実には、復興ができていない地域があることも事実であり、それは自分の目で見るまで正直実感はありませんでした。

福島県で生活してみて、どのように感じましたか？

編集者

既読3



栃木県
鈴木技師

私は福島県郡山市出身なので、他県の派遣職員の方ほど大きな驚きはありませんでしたが、中通りと比べて浜通りは暖かく雪も少なく、非常に過ごしやすかったです。



秋田県
中村技師

南相馬市街で生活する分には特に不自由なことはありませんでした。強いて不便な点を挙げるとすればスーパーマーケットの閉店時間が早い点でした。
気候も穏やかで冬も積雪が少なく過ごしやすかったです。また、仙台市にも近く交通の便もかなりよいと感じました。

復興支援隊にインタビュー



埼玉県
宮島技師

福島県で2年間生活した感想は、「すごく楽しかった」ということです。仕事仲間とプライベートで観光や旅行に行ったりすることで、見聞が広まっただけでなく、車の運転やウィンタースポーツの楽しさを知ることができました。どれも仲良くしてくれた福島県職員達のおかげです。個人的には、近所のプールへ、運動不足解消のために通い始めた結果、ノンストップで1,000m泳げるようになったことも大きな成果です。

福島県のお気に入りやお勧めは見つかりましたか？

既読 3

編集者



栃木県
鈴木技師

磐梯山、猪苗代湖、三春の滝桜、あぶくま鍾乳洞、鶴ヶ城、アクアマリンふくしま、浄土平天文台、飯坂温泉、相馬野馬追祭り、釈迦堂川花火大会、喜多方ラーメン、白河ラーメン、日本酒・・・

まだまだ、まだまだ、もっともっとたくさんあります！



秋田県
中村技師

いわき市によくドライブに行きました。国道から見える海の景色がとてもよく、お気に入りのドライブコースです。

また、食べ物では南相馬市内では6号線の近くにある「ポプラ」という洋食屋がお気に入りです。特に「ナポリA」という鉄板ナポリタンがおいしかったです。また、ジャスモール近くの「尚ちゃんラーメン」というラーメン屋もよく行きました。



埼玉県
宮島技師

私が特に好きになったものは、温泉です。土湯など老舗の温泉にも行きましたが、個人的には一般の大衆浴場によくお世話になりました。疲れたときや悩んだときによく長居していました。福島県には、観光名所もたくさんあります。城でも湖でも洞窟でも、どれか一つでも目的地を設定すれば「あとは勝手に楽しめる」と思います。車の運転が好きな人ならドライブに来て、帰りに適当な温泉に入って帰るだけでも、楽しいはずですよ。

最後にメッセージをお願いいたします！

既読 3

編集者



栃木県
鈴木技師

約1年前の4月、福島県職員として併任され、慣れない土地での仕事と生活に不安も大きくあった中、福島県職員の方々から暖かく迎えてくださり、非常に感謝しております。また、各県の派遣職員の方も非常に友好的に接してくださり、とても楽しい1年間を過ごすことができました。偶然にも大学時代の同級生2人と同じ職場で再会し、同じ空間で仕事をするという非常に刺激を受けた1年間でもありました。



復興支援隊にインタビュー



秋田県
中村技師

福島での1年間の生活を通して、復興作業はこれからも継続していかねばならないと感じました。原発事故の風評被害がまだありますが、そのような風評を払拭できるように秋田県に帰ってからも福島県のアピールをしていきたいと思っています。



埼玉県
宮島技師

福島県民だけでなく他県の派遣職員と一緒に仕事をすることができて、様々な経験をすることができました。感謝しています。考え方や経験が違って、復興という同じ目的に向かって協力し合う大切さを知りました。そして難しさも。復興に携わった全ての人へ、福島県での経験が、将来起きる災害への備えとして、多くの人の助けになることを祈っています。



皆さん！ありがとうございました！

既読 3

編集者

ちなみに、宮島さんはテレビ取材も受けてましたね！

既読 3

編集者



既読 3

編集者



ありがとうございました！



ありがとうございました！



埼玉のスーパースターですから！ありがとうございました！

福島県 福耕支援隊

震災から9年が経過し、本県の復旧・復興は着実に進んできています。一方で、未だに避難指示区域が残っており、営農再開ができない地域も多く、復興半ばといった状況にあります。

また、昨年の台風19号とその後の大雨により相双地方も甚大な被害が発生しました。震災からの復旧・復興と併せ、既存農業用施設の補強、更新を進め災害に強い農業農村づくりを進めていく必要があります。

さて、これまで国並びに全国27道府県から、延べ1,818人（R2を除く）の福耕支援隊の方々の応援により、南相馬市原町区以北及び檜葉町以南の津波被災地において営農が再開され、復興に向かって一步一步力強く前進しています。

特に、復旧・復興が進み早くより営農が再開された地域においては、法人化や経営規模拡大が進み、最新の営農が展開されつつあります。

また、新たに避難指示が解除となった地域では、農地や農業用施設の災害復旧事業と併せ新規のほ場整備事業導入が進められるなど、営農再開に向けた取組みが進展しつつあります。

津波被災農地の復旧や作付け制限解除農地の整備など今も業務は多忙を極めますが、相双地方の農業再生は勿論のこと、競争力の高い農業経営が行われるよう職員が一丸となってほ場の整備や農業水利施設の復旧に邁進しているところです。

農業を取り巻く状況は一段と厳しさを増し、農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄、これまで地域農業を支えてきた集落機能の低下など問題は山積していますが、関係機関と連携を密にしながら、職員一丸となって相双地方の復興へ取組んで参りたいと思います。

2020年は復興創生期間の最終年となりますが、大震災を乗り越え相双地域が力強く復興した姿を1日でも早く発信できるよう、引き続き全国からの御支援を賜りますようお願い申し上げます。

相双農林事務所 農村整備部長 齋藤 剛

東北地方太平洋沖地震災害 災害復旧執行状況（相双農林事務所）R2.3時点

		査定結果		計画変更後事業費		着手状況		完了箇所	
		箇所数 (ヶ所)	査定額 (千円)	箇所数 (ヶ所)	事業費 (千円)	箇所数 (ヶ所)	進捗 %	箇所数 (ヶ所)	進捗 %
団体 営災	農地	332	35,400,565	275	16,892,655	208	75.6%	208	75.6%
	農地(除塩事業を除く)	243	34,965,275	203	16,655,611	149	73.4%	149	73.4%
	除塩事業	89	435,290	72	237,044	59	81.9%	59	81.9%
	農業用施設	513	6,928,087	475	6,282,314	371	78.1%	369	77.7%
	農業集落排水施設	21	2,093,494	21	2,176,804	20	95.2%	17	81.0%
	団体 営 計	866	44,422,146	771	25,351,773	599	77.7%	594	77.0%
県 営災	海岸災害復旧事業	30	20,119,471	30	28,450,808	30	100.0%	29	96.7%
	農業用施設	48	15,432,333	45	14,203,245	45	100.0%	45	100.0%
	農地(区画整理)	112	22,993,553	112	12,940,829	93	83.0%	37	33.0%
	農業用施設(区画整理)	138	3,178,959	140	3,126,087	29	20.7%	24	17.1%
	県 営 計	328	61,724,316	327	58,720,969	197	60.2%	135	41.3%
計	合 計	1,194	106,146,462	1,098	84,072,742	796	72.5%	729	66.4%

平成31年3月末	1,194	106,146,462	1,109	91,905,588	772	69.4%	609	59.4%
増減	0	0	△ 11	△ 7,832,846	24		120	

農業農村整備 復旧・復興のあゆみフォト

金沢・北泉地区



原町東地区



小沢排水機場



真野地区



請戸川地区 (未整備)



北海老地区



八沢地区



原町東地区



両竹地区 (双葉町R2.3避難指示解除)



帰還困難区域の
果樹園



大熊町内(帰還困難区域 R2.2撮影)



福島県 相双農林事務所

農業農村整備 復旧・復興のあゆみフォト

農地海岸が令和2年3月に全て完了しました！

被災状況

無堤区間からの海水の流入



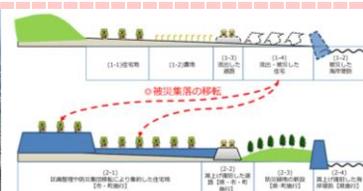
消波ブロックの飛散



復旧工事



完了状況



太平洋

～福耕支援隊としての1年間(平成30年度派遣)～

滋賀県から派遣され、相双農林事務所農地計画課で団体営災害復旧事業の審査指導に携わってきました山本龍仁です。福島県の皆様はもちろん相双管内市町村・土地改良区の皆様には大変お世話になりました。

大震災から丸9年、遠く離れた関西でも大きくゆっくりと揺れたあの時、津波に襲われる沿岸各地の映像、その後の福島第一原子力発電所での水素爆発、これは大変なことになった何か自分に出来ることはないのかと自問する時間が続きました。滋賀県はまず3月21日から避難所支援職員をあづま総合運動公園などへ派遣、9月からは2名1ヶ月交代で災害査定支援として新地町へ派遣、平成24年4月から今日まで相双農林事務所農村整備部に3名を1年交代で派遣してきました。

私も技術者の端くれとして、ぜひ福島県で復旧に携わりたいと願ってきましたが、当時は妻の妊娠、双子の誕生ととても単身赴任ができる状況ではなかったため、今年度に相双農林事務所へ赴任するまで7年が経過してしまいました。

「福島県は原発事故の影響で、宮城県、岩手県に比べて復旧が進んでいない。まだまだこれからだ。」と派遣されてきた多くの同僚から聞かされてきました。そして、こちらへ到着して初めて見た「黒い袋の山」と「草茫々の広大な土地」には言葉を失いました。それでも、初夏には復旧農地での営農が再開され、荒地が青々とした水田へと戻った姿には心を和まされました。田んぼを眺めながら、この1年間でさらに多くの農地を復旧できるように務めようと心に言い聞かせたものです。

福島県の復興にとって、“仕事場としての農地”の復旧がなにより急がれます。避難住民の生活基盤が避難先で確立していく中で、仕事場が無ければとても帰還には結びつかないと思います。それとともに、生産物はその品質(味や香り出来映え)と相応な価格で取引されることが必要です。関西ではいまだに風評がなくなっていない。それはやはり、相双地域や福島県全体の状況、そして、放射線とはどういうものをまるで知らないからです。

“なんとなく不安”を打ち消していくためには、現地で生活してきた者が自分の目で見たものを率直に話すことが大切で、それこそ自県へ戻った「福耕支援隊」に課せられた仕事だろうと感じています。



この1年間、多くの方と絆を結ぶことが出来ました。職場の方はもちろん、健康維持のために通っていた市民プールで知り合った地元の方々とも打ち解けることができ、地震のこと、避難した時のこと、これからの復興のことを語り、また会おうと約束できたことは“浅からぬ縁”として大切にしていきたいと思っています。これからも福島県の復興を応援していきます。そして、家族を連れて必ずまた訪れます。一年間ありがとうございました。



滋賀県から近江茶



相馬市で
記念植樹



～福耕支援隊としての1年間(令和元年度派遣)～

静岡県から派遣されました小長井遥です。1年間、原町南部地区の災害復旧事業を担当してきました。まずは県職員や地元の皆様に福耕支援隊を温かく迎え入れていただいたことに感謝申し上げます。

平成23年3月11日、私はまだ学生で、当時住んでいた仙台市内で地震に遭いました。激しく長い揺れや、停電で真っ暗になった街の景色に戸惑い、携帯の粗い画面に映された津波や原発事故の映像を見ながら、恐怖や不安を感じる日々が続きました。その真っ只中で、県民のために孤軍奮闘されてきた本県の諸先輩方には敬意を示さずにはられません。

今回の派遣を通じてはじめて、復興がどれほど進んでいるのかを肌で感じることができました。原発から半径20kmの外側と内側、さらには帰還困難区域等の規制が解除されたばかりの地域と、復興の状況が斑模様を描いている現状を知り、他の被災県にはない復興の難しさを感じました。一方、沿岸部ではほ場整備だけでなく、防災林や復興道路、再生エネルギー施設等が整備され、復興がめざましい勢いで進んでいる実感もありました。

私が担当した原町南部地区は災害復旧事業の最終年度を迎え、復興の兆しが見えてきたところです。初めて面整備を担当し戸惑うことも多かったのですが、工事が完了し作付けが始まったときは、感動して何度も写真を撮りに行きました。また、昨年は台風19号災害が県内で猛威を奮い、復旧が加速していた地域も再び甚大な被害を受けてしまいました。復興の勢いを止めるわけにはいかないと、農村整備部一丸となって台風災の災害査定準備をしたことは、貴重な経験になりました。

今回の派遣業務を通じて、県境を超えたつながりができたことは非常に大きいと感じています。いつ、どこで、どのような規模の災害が発生してもおかしくない今日、県を超えたネットワークと今回得た経験を活かし、公私を問わず応援に駆け付けたいと思います。それよりもまず、全線復旧した常磐線で、今年も相馬野馬追を見に「里帰り」できればと思っています。最後に、福耕支援隊を公私にわたり支えていただいた皆様、本当にありがとうございました。



パイプラインの操作を実演指導する
小長井技師



南相馬市鹿島区での記念植樹

3月には避難指示が新たに解除され、JR常磐線がいわきー仙台間で運転再開となりました。令和元年台風19号等による被害などがありましたが、農地の復旧・復興も加速化させ、いち早いふくしまの復興を目指します。



全国農村振興技術連盟会員の皆様や台湾農田水利会連合会からの義援金をはじめ、多大なるご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

発行元：福島県農村振興技術連盟
(編集 福島県農村計画課)
電話：024-521-7405
FAX：024-521-7545